

2011 年

5 月 23 日（月曜日） 丹後建国 1300 年の大きな節目へ向けて - 丹後広域連携会議の創設とその初仕事 -

本日、丹後の 2 市 2 町の首長さんから構成される「丹後広域連携会議」が創設され、初開催となった。これは、昨年度一杯で丹後地区広域市町村圏事務組合が解散をしましたが、丹後地域を巡っては、引き続き、KTR をはじめとした公共交通や環境、観光、医療問題など多くの広域的な課題があり、これらの課題解決推進には、自治体の枠を越えて広域的に連携していくことが欠かせません。このため、今後とも、丹後 2 市 2 町が様々な分野で情報交換に努め、相互の連携を図りながら、地域の一体的な発展を展望・協力していくため、本会議が創設されたのです。

今後、様々な課題についてますます連携を強めていきたいと思っておりますが、何と言っても丹後全体の将来の発展に向け大きな弾みとなりうる節目として、「丹後建国 1300 年」の大時節が目前に控えています。

というのも、再来年の平成 25 年、2013 年は、かつて丹後が丹波から分かれて建国をされた西暦 713 年から、1300 年の大きな節目となります。本日の第 1 回の丹後広域連携会議においても、各首長さんから、広く丹後の各分野の官民が連携して実行委員会をつくり、「丹後建国 1300 年」の慶祝の事業を大々的にやっていこう、と意気投合をしました。この節目に、改めて丹後の傑出した歴史的な特長、アイデンティティを広く丹後地域内外の住民の皆さんと共有して、郷土愛をますます育て、地域の全国発信と地域振興を果たしていきたいと思う。

とりわけ、平成 25 年、2013 年というのは、平成 24 年から 26 年にかけて待望の京都縦貫自動車道や近畿自動車道敦賀線が全線完成する時期であり、それゆえにも、このようなインフラの整備を背景に、かつて極めて進んだ技術と文化で発展をとげた、我が国ものづくりのふるさとの一つである丹後の産業の更なる発展を、この節目にあたり実現への弾みとしていきたいのです。

まだまだ着想の段階を越えませんが、これから 2 年の時間の中で、広く丹後の皆さんや京都府の仲間の皆さんと連携をして、この連携会議の大きな初仕事としても、将来の地域の発展の大きな弾みとなるような準備と取組みをしていきたいと思っております。